

<ハートコース 2024>鍛錬テスト①

©2025sakurakosensei 転載・転売・流用禁止

<問題編>

問1

次の乳幼児の運動機能の発達に関する記述について、適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 生後6か月頃、手のひらでものをつかむことができる。
- B 生後8か月頃、短時間であればひとりで座ることができる。
- C 3歳頃、ぎこちないながらボタンをはずすことができる。
- D 4歳頃、早い子だとスキップができる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	×	×	○
2	○	○	○	×
3	○	×	○	○
4	×	×	○	○
5	×	○	×	×

問2

次の文は、言語における認知機能に関する記述である。(A) ~ (D) にあてはまる語句を【語群】から選んだ場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

(A) は、人間の発達では、まず初めに (B) があり、それが (C) し、心的機能に転化するとした。彼は言語における認知機能として、まず幼児期にコミュニケーションの役割をもつ (D) が現れるとしたが、(D) を自身の思考の手段である言葉として、(C) が不完全な状態として現れたものであるとした。

【語群】

ア 内言	イ 外言	ウ 独語	エ 表面化	オ 内面化
カ 社会的関係	キ 社会構造主義	ク 構造主義	ケ ピアジェ	
コ ヴィゴツキー				

(組み合わせ)

- 1 ケ ク エ イ
- 2 コ キ オ ア
- 3 コ カ オ ウ
- 4 ケ カ エ ウ
- 5 コ ク オ ア

問3

次の文のうち、愛着に関する記述として、適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A ストレンジ・シチュエーション法における B タイプ・回避型の子どもは、母親との再会時には、母親から目を逸らすなど、母親を避けようとする傾向がある。
- B ストレンジ・シチュエーション法において、子どもより自分の都合に合わせて子どもに対応する母親の場合、その子どもはアンビバレント型になる傾向がある。
- C 愛着の形成において、愛着関係を築いた相手の注意や関心を引き、相手をしてもらおうとする行動を「定位」という。
- D ボウルビィは、目の前に愛着形成の対象者である養育者がいなくても養育者の考えや目的を推測し、目標修正的な協調性を形成することを、内発的動機づけとした。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	×	○	×	×
2	○	×	×	○
3	○	○	○	×
4	○	○	×	×
5	×	×	○	○

<解説編>

問1 正答 4

- A × 手のひらでものをつかむことができるのは、生後4か月頃である。
- B × 短時間であればひとりで座ることができるのは、生後6か月頃である。
- C ○ 同じく3歳頃には、三輪車に乗れるようになる。
- D ○ 同じく4歳頃には、でんぐり返しをしたり、はさみを使えたりするようになる。

問2 正答 3

(A ヴィゴツキー)は、人間の発達では、まず初めに(B 社会的関係)があり、それが(C 内面化)し、心的機能に転化するとした。彼は言語における認知機能として、まず幼児期にコミュニケーションの役割をもつ(D 独語)が現れるとしたが、(D 独語)を自身の思考の手段である言葉として、(C 内面化)が不完全な状態として現れたものであるとした。

問3 正答 1

- A × Bタイプ、という記述が不適切。回避型はAタイプであり、このタイプの子どもは母親と離れてもほとんど泣いたり混乱したりせず、母親との再会時によそよそしい。Bタイプは安定型である。
- B ○ Cタイプのアンビバレント型の子どもは、母親と離れる時に不安や混乱が見られたり、母親が戻った際、怒りながら母親を叩くなどしたりすることがある。
- C × 選択肢の文章は、「発信」である。「定位」とは、愛着関係を築いた相手がどこにいるのかを確認する行動で、たとえば養育者を目で追う、養育者の声の方を向くなどの行動をあげることができる。
- D × 選択肢の文章は、内的ワーキングモデルのことである。ボウルビィの発達段階において、3歳以降には、特別な他者と2次的な人物との区別がつくようになり、内的ワーキングモデルが形成されるとされている。内発的動機づけとは、自分自身の内部からの欲求が行動の動機となることである。